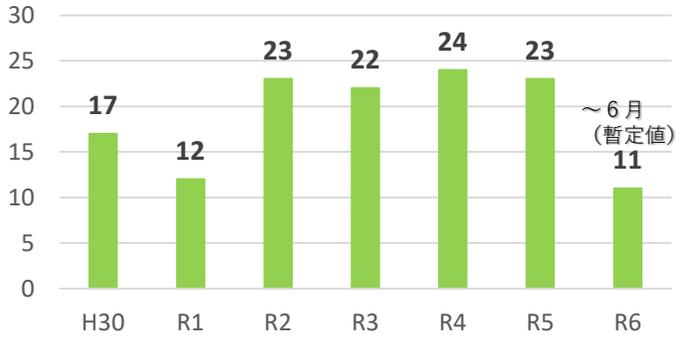


# 草津市における自殺の実態について

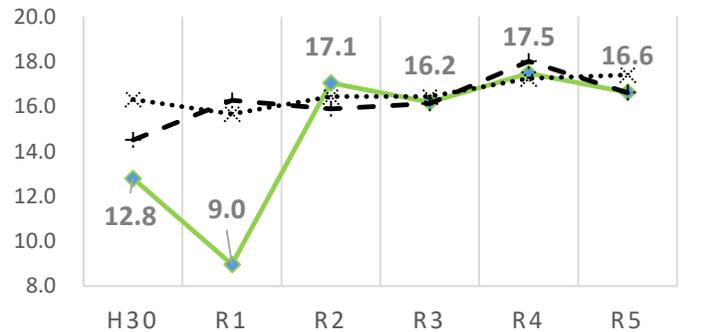
## ◆自殺者数・自殺死亡率

・令和5年（1～12月）の自殺者数は23人、自殺死亡率（※人口10万対）は16.6であり、近年横ばいで推移している。令和6年においては、11人（6月時点の暫定値）となっている。

(人) 自殺者数の推移



自殺死亡率の推移



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

## 自殺統計に用いたデータについて

### ▼地域における自殺の基礎資料

警察庁の「自殺統計」をもとに、厚生労働省自殺対策推進室により、全国・都道府県・市町村の自殺者（外国人を含む）について再集計したものの。

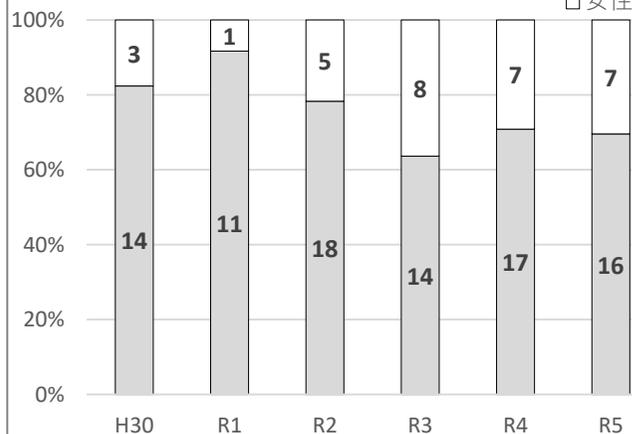
### ▼地域自殺実態プロフィール

警察庁自殺統計原票データをいのち支える自殺対策推進センター（以下、JSCP）にて個別集計し、市町村それぞれの自殺の実態を分析している。

## ◆性別・年齢階級状況

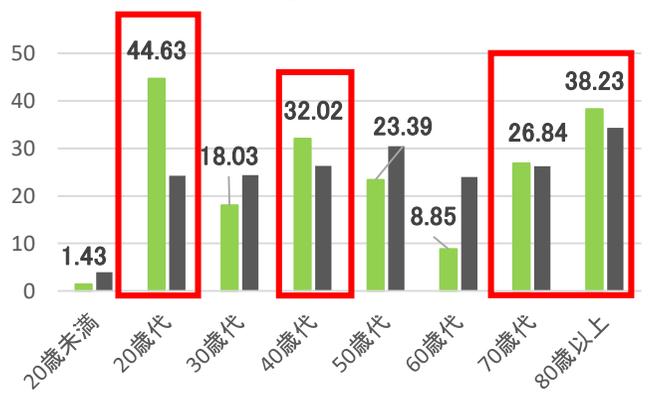
・令和5年の女性の割合は3割を占めている。また、全国と比較した自殺死亡率の最新のデータによると、男性では20代、40代、70代以上が高く、女性では20歳未満が高い。

自殺者の性別構成比



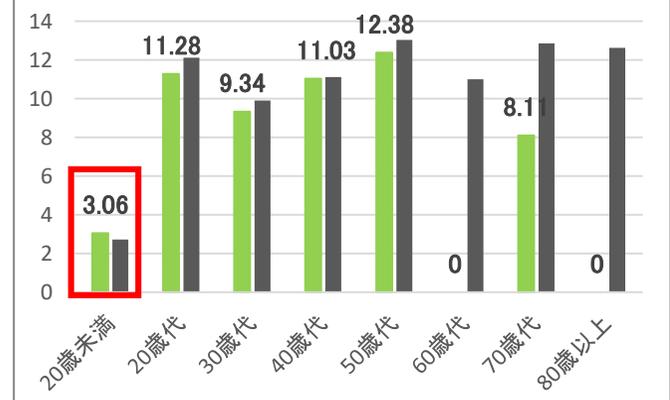
資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

男性：年代別自殺死亡率  
(平成30年から令和4年の平均)



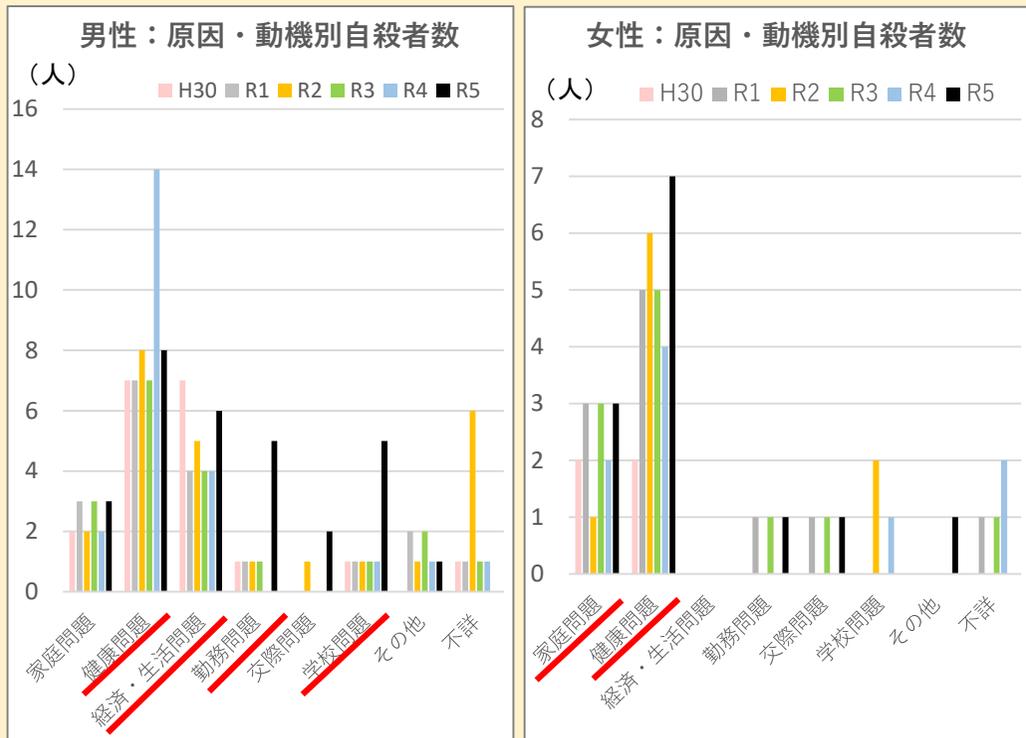
資料：いのち支える自殺対策総合推進センター「地域自殺実態プロフィール (2023)」

女性：年代別自殺死亡率  
(平成30年から令和4年の平均)



## ◆原因・動機別の状況

- ・令和5年において、男性は「健康問題」「経済・生活問題」「勤務問題」「学校問題」が上位であり、女性は「健康問題」「家庭問題」が上位である。



資料：厚生労働省「地域における自殺の基礎資料」

## ◆地域自殺実態プロファイルからみえる重点対象者

- ・失業や生活困窮、職場や学校内など周囲との人間関係の悩みからうつ状態となり、自殺につながるケースが多い状況である。

自殺者の特性上位5区分	自殺者数(5年計)	割合	自殺死亡率* (人口10万対)	背景にある主な自殺の危機経路**
1位:男性60歳以上 無職同居	11	11.2%	25.9	失業(退職)→生活苦+介護の悩み(疲れ)+身体疾患→自殺
2位:男性20~39歳 無職独居	10	10.2%	72.9	①【30代その他無職】失業→生活苦→多重債務→うつ状態→自殺 ②【20代学生】学内の人間関係→休学→うつ状態→自殺
3位:男性40~59歳 有職同居	10	10.2%	13.2	配置転換→過労→職場の人間関係の悩み+仕事の失敗→うつ状態→自殺
4位:男性40~59歳 無職独居	7	7.1%	428.2	失業→生活苦→借金→うつ状態→自殺
5位:男性40~59歳 有職独居	7	7.1%	43.0	配置転換(昇進/降格含む)→過労+仕事の失敗→うつ状態+アルコール依存→自殺

自殺者の特徴(平成30年~令和4年合計) 資料：いのち支える自殺対策総合推進センター「地域自殺実態プロファイル(2023)」

- ▶ 区分の順位は自殺者数の多い順で、自殺者数が同数の場合は自殺死亡率の高い順。
- ▶ 「自殺死亡率」の算出に用いた人口(母数)は、総務省「令和2年国勢調査」就業状態等基本集計を基に自殺対策総合推進センターにて推計したもの。
- ▶ 「背景にある主な自殺の危機経路」は、ライフリンク「自殺実態白書2013」を参考に推定したものであり、自殺者の特性別に見て代表的と考えられる経路の一例。

## ◆自殺未遂者支援からみえる自殺未遂者の状況

- ・滋賀県が実施する湖南いのちサポート相談事業等を通じて把握した自殺未遂者について分析を行った。
- ・令和5年度における新規の自殺未遂者数は10人であり、近年と比較して減少した。また、近年同様に女性の割合が高く、年齢階級別では、20歳代までの割合が高い。
- ・令和6年度は8月時点で12人と増加傾向にある。年齢階級別では、30歳代の割合が高い。
- ・令和5年度における新規の自殺未遂者における自殺未遂の原因・動機は、健康問題と家庭問題が上位であり、令和6年度も同様の傾向であるが、勤務問題が増えている。
- ・令和5、6年度においても、自殺未遂・自傷の手段として、過量服薬が多い。

～湖南いのちサポート相談事業～

湖南圏域(草津市、守山市、栗東市、野洲市)の救急告示病院を受診した自殺未遂者やその家族に対して相談支援を行い、再企図を防止することを目的とした相談事業。